

歯科医師との共通認識をもって  
歯周基本治療に取り組むために……



### 歯周基本治療で治る！ 歯周基本治療で治す！

牧野 明著

A4判変/176頁 定価：本体8,200円+税  
医歯薬出版刊（2013年6月発行）

東京都世田谷区・小林歯科医院  
評・鍵和田優佳里（歯科衛生士）



歯周治療は歯科臨床の基盤であり、炎症の改善をはかるとともに、患者さんと診療室の良好な関係を築くことができる大切な治療だと考えます。特に歯周基本治療は、歯科衛生士がかかわる処置が多いため、歯科医師と共通認識をもち、処置を進めることが重要です。

本書『歯周基本治療で治る！歯周基本治療で治す！』は、豊富な口腔内写真やX線写真によって歯周基本治療の効果を学び、歯科衛生士としてレベルアップできる一冊です。

Chapter 1では、歯周基本治療で治癒した症例を提示し、炎症が改善すると歯周組織や歯はどのように変化するのか、各症例のポイントが解説されています。治療の結果、歯周組織が回復するだけでなく、歯が移動し、骨が安定することが各種資料によって示され、歯周基本治療の効果がわかりやすく解説されています。

Chapter 2では、歯周基本治療にはどのような知識や技術が必要なのか、治療の流れとともに解説されています。歯周基本治療のレベルが上がる臨床ヒントとして、歯肉の変化を予測したブラッシング指導の方法や効果的なSRP技術について解説されており、「歯科衛生士力」を上げるための臨床ヒントともなります。特にSRPは、歯科衛生士の技術が求められる処置であり、確かな技術で歯周治療に取り組んでいる牧野先生の手技の実際はとても勉強になります。牧野先生は、SRP成功の鍵は、「根面や歯周組織を知ること、キュレットの管理ができることなど総合力のアップにある」としています。そのような視点でSRPに取り組むことで、「歯周基本治療で治す」ためのSRPが行えるようになるでしょう。

そして、Chapter 3では、Chapter 1で示された症例の詳細を提示し、歯周基本治療の意義が解説されています。歯周基本治療によって炎症を改善した後に歯周外科治療や補綴治療に臨むということは周知のことではありますが、紹介されている症例は、ブラッシングによって歯肉が理想的な形態になり、SRPで歯や骨が安定して維持されている、歯科衛生士が目標とする症例ばかりです。また、歯周基本治療を行うときに理解しておくべき歯科医師の診断、処置についても学ぶことができ、歯科医師との共通認識を深めることができます。効果的な歯周基本治療を行うことで、歯周外科治療が減り、補綴治療をはじめとした歯科治療の効果が維持できるのです。そこに歯周基本治療の意義があるのではないのでしょうか。

本書には、「歯周治療は歯科医師と歯科衛生士がイメージを共有し、適切な役割分担がなされることが重要です」と書かれています。歯科衛生士が歯科医師と共通の視点を持ち、歯周基本治療で適切な役割をはたすためにぜひ読んでいただきたい一冊です。